

S-Stage ボアアップキット 138cc 取扱説明書

製品番号	01-05-5440 (カムN-10付)
	01-05-5441 (カムN-20付)
	01-05-5442 (カム無し)

適応車種 Z125 PRO (BR125H-A02621 ~ A16470)

この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。

使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。

万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合があります。予めご了承下さい。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

FI コントローラーについてのご注意

当製品を取り付け、ノーマル ECU のままで使用すると、エンジンが重大な故障を起こす可能性があります。

弊社製 FI コントローラー“FI コン TYPE-e”を必ず同時装着して下さい。

使用燃料についてのご注意

当製品はノーマルに比べ、高圧縮比となるよう設定しております。燃料は必ずハイオクタン価ガソリンをご使用下さい。レギュラーガソリンを使用した場合、異常燃焼を起こし、本来の性能を発揮しない上にピストンが壊れて重大な故障を起こす可能性があります。製品取り付け前にフューエルタンクに残っていたガソリンにもご注意ください。レギュラーガソリンが残っている場合は必ずハイオクタン価ガソリンと入れ替えて下さい。

スパークプラグについてのご注意

スパークプラグは必ず、CR8HSA (NGK) 又は、U24FSR-U (DENSO) に交換して下さい。その後、スパークプラグ電極部の焼け具合により番数を決定して下さい。

音鳴りについてのご注意

当製品を取り付けると、シリンダの冷却ファンの共振による音鳴りが発生する場合があります。この場合はキット内のダンパをキットのシリンダーに組み付けて対処して下さい。

◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。

◎当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どの様な事柄でも一切負いかねます。

◎当製品は、上記適応車種、フレーム番号の車両専用部品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意ください。

◎当製品を取り付けると排気量が原付二種を超える為、一般公道の走行が出来ません。一般公道を走行すると違反となり運転者本人が罰せられる対象となります。

◎製品番号 01-05-5442 (カム無し) は弊社製スポーツカムシャフト N-10 もしくは、オプションカムシャフト N-20 との併用を対象としております。ノーマルカムシャフトのままではご使用出来ません。

◎当製品のシリンダーはノーマルクランクケースの個体差により干渉する場合があります。また、干渉する場合はノーマルクランクケースの修正を行う必要があります。ご注意ください。

◎シリンダーヘッドの個体差により、カムシャフト取り付け時に干渉する場合があります。干渉の際はシリンダーヘッドの修正加工を行って下さい。

◎ノーマルから出力が上がりますので、トランスミッション等各部の負担が大きくなります。破損には十分注意して下さい。

◎当製品の取り付けには上記適応車種にあった純正サービスマニュアルを参照し、確実に作業を行って下さい。

◎取り付けの際には適切な工具等を準備し、取り付け要領に従って十分注意して作業を行って下さい。尚、この取扱説明書や純正サービスマニュアルは基本的な技能や知識を持った方を対象としております。取り付け等の経験の無い方、工具等の準備が不十分な方は技術的信用のある専門店へご依頼されることをお勧め致します。

◎当製品を加工等された場合は保証の対象にはなりません。

◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。

◎ボルト、ナット、ノックピン、パッキンの一部は再使用しますが、摩耗や損傷が激しいものは再使用せず、必ず新品のものをご使用下さい。

注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

■作業等を行う際は、必ず冷間時（エンジン及びマフラーが冷えている時）に行ってください。（火傷の原因となります。）

■作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。（部品の破損、ケガの原因となります。）

■規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行って下さい。（ボルト及びナットの破損、脱落の原因となります。）

■製品及びフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行って下さい。（ケガの原因となります。）

■走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いかを確認し緩みがあれば規定トルクで確実に増し締めを行って下さい。（部品の脱落の原因となります。）

■ボルト、パッキン類で再使用する部品については、よく点検し摩耗や損傷がある場合は必ず新品部品と交換して下さい。（故障の原因となります。）

警告 この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

■エンジンを始動させての点検は、必ず換気の良い場所で行って下さい。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。（一酸化炭素中毒になる恐れがあります。）

■走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。（事故につながる恐れがあります。）

■作業を行う際は、水平な場所で車両を確実に安定させ、安全に作業を行って下さい。（作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。）

■点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。（不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。）

■点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行って下さい。（事故につながる恐れがあります。）

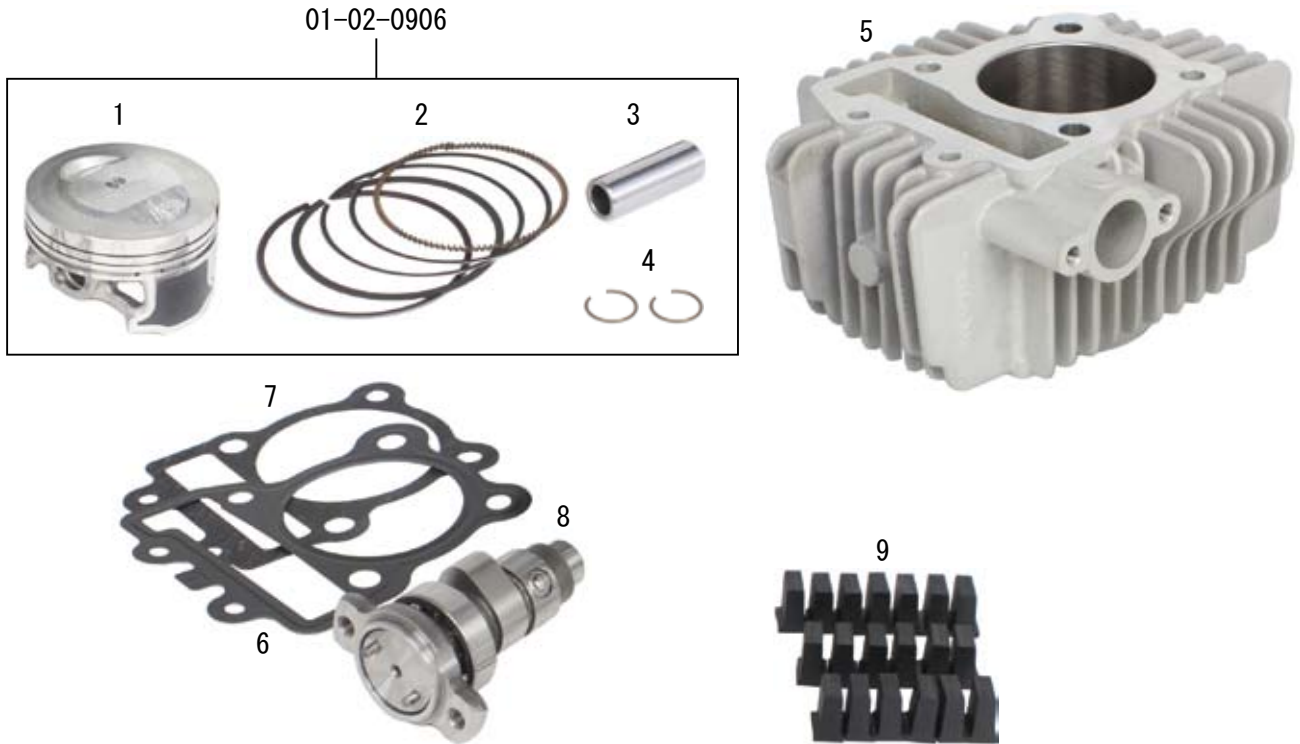
◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品及び価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。

◎クレームについては、材料及び加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させていただきます。

但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。
 なお、レース等でご使用の場合はいかなる場合もクレームは一切お受け致しません。予めご了承下さい。

◎この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいますようお願い致します。

製品内容



番号	部品名	個数	リペア品番
1	ピストン 59mm	1	13110-KL1-T10
2	ピストンリングセット 59mm	1	01-15-023
3	ピストンピン 13x36	1	13111-GEF-T01
4	ピストンピンサークリップ 13x1	2	00-01-0003 (6ヶ入り)
5	シリンダー 59mm	1	01-01-0102
6	シリンダーヘッドガスケット	1	12251-KL1-T10
7	シリンダーガスケット	1	12191-KL1-T00
8	カムシャフト N-10	1	01-08-0065
	カムシャフト N-20		01-08-0066
9	ダンパB	19	00-01-0342 (10ヶ入り)

※8のカムシャフトN-10は01-05-5440に、カムシャフトN-20は01-05-5441にそれぞれ付属します。

※01-05-5442は、8のカムシャフトは付属しません。

※リペアパーツは必ずリペア品番にてご発注下さい。

品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。予めご了承下さい。

尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいませお願い致します。

※水平で安全な場所で車両を安定させる。これからの作業は必ず冷間時（エンジンおよびマフラーが冷えている時）に行う事。

●取り外し

★ホコリやオイルなどの汚れを取り除いてきれいにしながら各パーツを取り外していくようにする。

★取り外したボルトやナットは無くさないように、どの場所を使用するのかわかるように保管する。

外装部品の取り外し

◇シートを取り外し、サービスマニュアルを参照してサイドフレームカバー左右、ミドルカウリング左右を取り外す。ロアカウリングを取り外す。

エキゾーストマフラーの取り外し

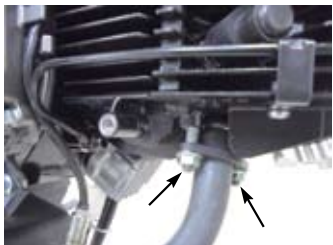
※エキゾーストマフラーがノーマルから変更されている場合は、その取説に従い取り外す。

◇エキゾーストパイプに繋がるO₂センサーカブラーの接続を外す。

注：O₂センサーの接続を外した状態でメインキーをONにするとエンジンチェックランプが点灯してしまうため、O₂センサーのコネクタを外し、メインキーをONにしない様、注意する事。一旦点灯させた場合、純正サービスマニュアルの指示に従い、チェックランプの解除方法を行う事。



◇エキゾーストパイプホルダーナット2個を取り外す。



◇マフラー取り付けボルトを取り外し、マフラーを取り外す。



エアクリーナーの取り外し

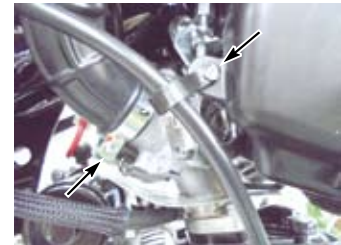
◇ブリーザーホース、ドレンホースをエアクリーナーから外す。



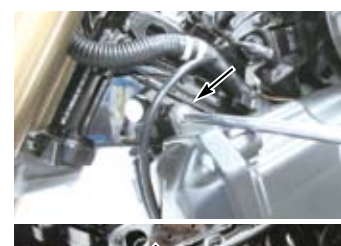
◇ホーンの配線の接続を外し、ボルトを取り外してホーンを取り外す。



◇バンドのクランプを緩め、コネクティングチューブとスロットルボディの接続を外す。ハイテンションコードのクランプを外す。

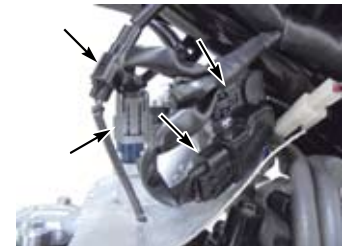


◇3本のスクリューを取り外し、エアクリーナーをフレームから取り外す。

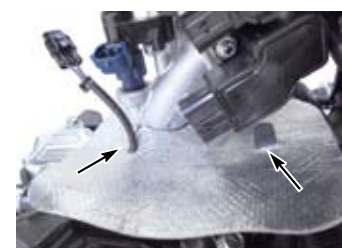


スロットルボディ / インテークパイプの取り外し

◇インジェクタコネクタ、アイドルコントロールコネクタ、スロットルセンサコネクタ、温度センサコネクタの接続を外す。



◇断熱シートからクランプを外し、温度センサのカブラーを通す。



◇インテークパイプのユニオンからホースを外す。



◇ボルト / ワッシャ2本を取り外し、スロットルボディ / インテークパイプをシリンダーヘッドより離す。



スパークプラグの取り外し

◇プラグキャップを引っ張って外す。必ずキャップ部分を持って引っ張る事。

◇スパークプラグを取り外す。



カムプロケットの取り外し

◇ボルト4本を取り外し、カムプロケットカバーを取り外す。各2本のボルトを取り外し、バルブアジャスティングカバーIN側、EX側を取り外す。



◇ジェネレーターカバーのホールプラグ2箇所を取り外す。

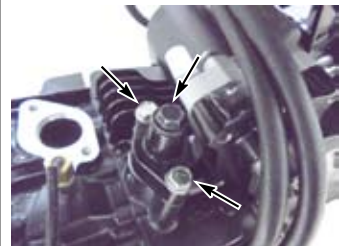


◇フライホイールを反時計方向に回し、カムプロケットの“—”マークをシリンダーヘッドの突起に合わせる。



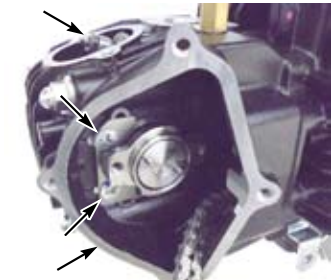
◇フライホイールを保持し、カムプロケットのボルト2本を取り外す。

◇カムプロケットを取り外す。◇シリンダーのカムチェーンテンショナーのキャップボルトを取り外しておく。取り付けボルト2本を緩めておく。



シリンダーヘッドの取り外し

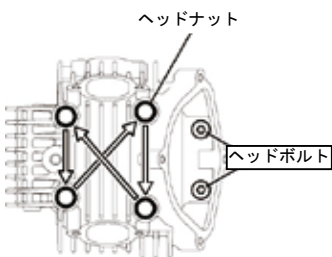
◇ロッカーアームシャフトストップの2本のボルトを緩めておく。IN、EXのロッカーアームのアジャストナットを緩め、アジャストスクリューを緩めておく。



◇オイルパイプ取り付けスクリューと、クランクケース側、シリンダーヘッド側のバンジョーボルトを取り外し、オイルパイプを取り外す。



◇ヘッドボルト2本を取り外す。ヘッドナット4個を対角に数回に分けて緩め、取り外す。



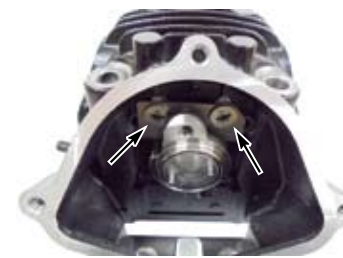
◇シリンダーヘッドを引っ張って取り外す。(かたい時はプラスチックハンマーで軽くたたき、取り外す。)



◇ノックピン2個は、再使用するので取り外しておく。

カムシャフト取り外し

◇スクリュー2本を取り外し、ロッカーアームシャフトストップを取り外す。



◇ロッカーアームシャフトを引き抜いて、IN、EXのロッカーアームを取り外す。



◇カムシャフトを抜き取る。



シリンダーの取り外し

◇ロアカムチェーンガイドを取り外す。



◇シリンダーを引っ張って取り外す。(かたい時はプラスチックハンマーで軽くたたき、取り外す。)



◇ノックピン2個は、再使用するので取り外しておく。

◇シリンダーが外れた後、ゴミや部品が入らないようにウエス等をクランクケースのシリンダーホールとカムチェーンホールに詰め込む。

◇ガスケットがクランクケースに残った場合は、スクレーパーやカッターナイフ等できれいに除去しておく。

※キズをつけないように注意。

◇2本のボルトを取り外し、シリンダーからカムチェーンテンショナーを取り外す。

ピストンの取り外し

◇ピストンピンサークリップの片側を取り外す。

★ピストンピン穴の切り欠き部を利用してこじると外れやすい。



◇サークリップを取り外した方へピストンピンをドライバー等で押して外し、ピストンを外す。

●確認

※キットのシリンダーはノーマルクランクケースの個体差により、スリーブのクランクケース挿入部が干渉する場合があります。※干渉する場合、ノーマルクランクケースの修正を行う事。

●修正要領

1. シリンダーをクランクケースにノックピンで位置決めし、取り付けてみる。クランクケースの干渉位置を把握する。
2. クランクケース内に削り粉が入らないようにしっかりとウエスを詰める。
3. ヤスリ、リューター等を用いて削る。削りすぎないように少しずつ削る。
4. 削り粉がクランクケース内に入らないように、慎重にウエスを取り除く。

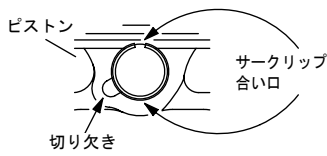
クランクケース干渉部の修正が出来るまで、1～4の作業を繰り返す。削りすぎを防ぐため、少しずつ行う事。

●S-Stage ポアアップキットの
取り付け

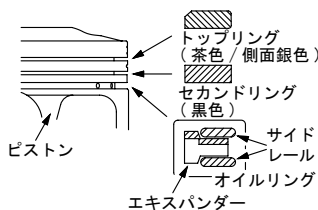
ピストンの取り付け

◇ピストンのピン穴の片側に付属のピストンピンサークリップを取り付ける。

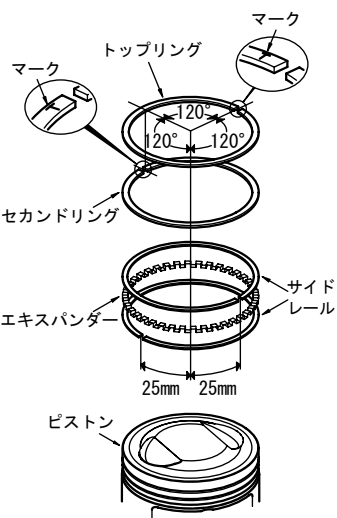
※ピストンピンサークリップの合い口は切り欠き部を避けてピストン上下方向に向けて取り付けする事。



◇ピストンにピストンリングを取り付ける。エキスパンダー、サイドレール、セカンドリング、トップリングの順に取り付ける。トップリングとセカンドリングは形状、色に違いがあるので間違わないように、又、文字面を上面向けて取り付ける。



◇ピストンリングにエンジンオイルを塗布し、合い口を下图のように120度間隔にする。



◇ピストンピン、ピストンピン穴、コンロッドのピストンピン穴にエンジンオイルを塗布する。

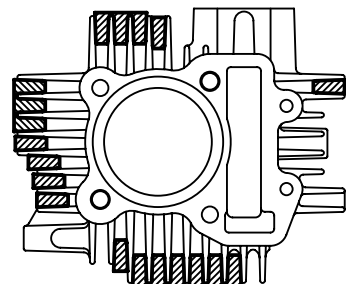
◇ピストン頂面の“IN”文字が、上(吸気側)になるようにピストンを取り付ける。



◇付属のピストンピンサークリップを取り付ける。

シリンダーの取り付け

◇シリンダー冷却フィンの中に、キット内のダンパBを図の場所に奥まできっちり入る様取り付ける。(シリンダー冷却フィン共振音低下の為。)



◇詰めていたウエスを取り外す。

◇クランクケースとシリンダーの合せ面をシンナー等で脱脂し、きれいにする。

◇ノックピン2個とシリンダーガasketをクランクケースに取り付ける。

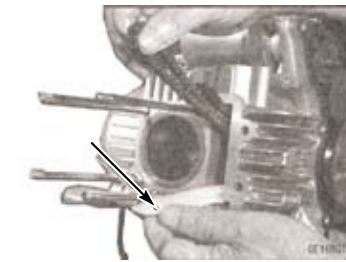


◇シリンダーの内側にエンジンオイルを塗布し、均等に薄く塗り広げる。ピストンの全周面と、ピストンリングにエンジンオイルを塗布する。

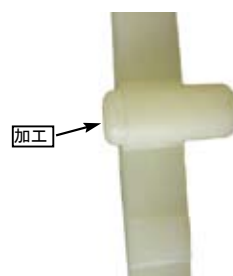


◇シリンダーをピストンリングの合い口の位置がずれないように指で少しずつピストンにはめていき、シリンダーをクランクケースにはめ込む。シリンダーがピストンにはまったら、カムチェーンをシリンダーに通しておく。

◇ロアカムチェーンガイドをシリンダーとクランクケースの溝にしっかりととはめ込む。



※シリンダーにチェーンガイドを取り付ける際、個体差でチェーンガイドが溝の奥まで入りきらない場合があります。写真を参考にチェーンガイドの横方向にガタが出るまで加工し、溝の奥まで入っている事を確認して下さい。



カムシャフトとロッカーアームの
取り付け

◇付属のカムシャフトのベアリング、カム摺動部、中央の穴にエンジンオイルを塗布する。



◇付属のカムシャフトをシリンダーヘッドに取り付ける。この時、シリンダーヘッドの切り欠き部にカムシャフトのカム山を合わせながら差し込んでいく。

※シリンダーヘッドの個体差により、シリンダーヘッドの切り欠き部とカム山が干渉する場合がありますので、その際はシリンダーヘッドの修正加工を行う。



◇カムシャフトのIN、EXのカム山が燃焼室側になるようにセットする。◇ロッカーアームを手で持ち、ロッカーアームシャフトをシリンダーヘッドに差し込み、IN、EX共に取り付ける。



シリンダーヘッドの取り付け

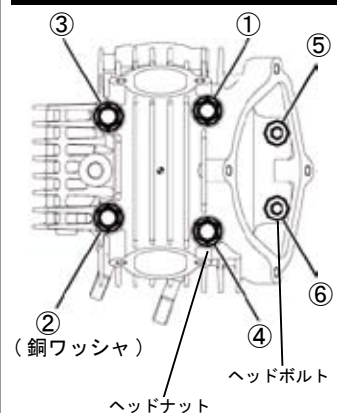
◇シリンダーとシリンダーヘッドの合せ面をシンナー等で脱脂し、ノックピン2個とシリンダーヘッドガasketをシリンダーに取り付ける。

◇カムチェーンをシリンダーヘッドに通し、シリンダーヘッドを取り付ける。

◇銅ワッシャを下図の②の位置に取り付ける。

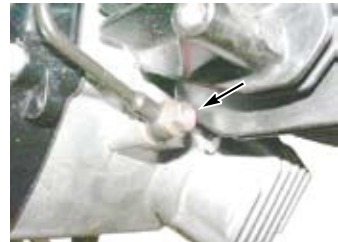
ヘッドナット4個、ネジロック剤を塗布したヘッドボルト2本を仮止めしておき、下図の番号順に数回に分けて締め付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ヘッドボルト
トルク：12N・m (1.2kgf・m)
ヘッドナット
トルク：22N・m (2.2kgf・m)



◇オイルパイプを取り付けスクリューと、パンジョーボルトで取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
スクリュー
トルク：5.2N・m (0.53kgf・m)
パンジョーボルト
トルク：15N・m (1.5kgf・m)



■取り付け要領 ※特に記載の無い細部の取り付け方法や規定トルクにつきましては、純正サービスマニュアルを参照して下さい。

◇ロッカーアームシャフトストッパーをネジロック剤を塗布したスクリュー2本にて取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
スクリュー
トルク：5.2N・m (0.53kgf・m)



◇カムチェーンテンショナーのストッパーを時計方向にいっぱいまで回し、プッシュロッドをロックさせる。



◇カムチェーンテンショナーをマークが車両前方を向くようにシリンダーにセットし、ネジロック剤を塗布したボルト2本にて取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：5.2N・m (0.53kgf・m)

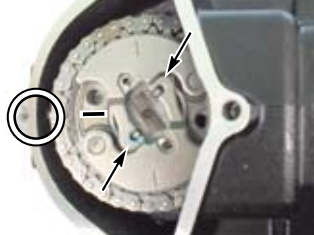


カムプロケットの取り付け

◇フライホイールの“T”マークの線をジェネレーターカバーサービスホール突起に合わせる。



◇カムプロケットの“-”マークがシリンダーヘッドの突起に合うようにカムチェーンを取り付ける。デコンプシャフトのピン2箇所とウエイトの爪を合わせ、カムプロケットをカムシャフトにはめ込む。



◇カムプロケットの穴にカムシャフトのネジ穴を合わせ、ネジロック剤を塗布したソケットキャップスクリュー2本を取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ソケットキャップスクリュー
トルク：12N・m (1.2kgf・m)

◇カムチェーンテンショナーのストッパーを反時計方向に少し回し、プッシュロッドのロックを解除する。キャップボルトを取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
キャップボルト
トルク：5.2N・m (0.53kgf・m)



バルブクリアランスの調整

◇カムプロケットの“-”マークをシリンダーヘッドの突起に合わせ、フライホイールの“T”マークの線がジェネレーターカバーサービスホール突起に合っているか確認する。

◇アジャストスクリューとバルブステムの間にシクネスゲージを差し込み、引き抜くときに少し抵抗があるぐらいに合わせ、アジャストスクリューを固定してナットを締め付ける。

バルブクリアランス
：IN、EX 共に 0.04 ~ 0.08mm

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ナット
トルク：8.8N・m (0.9kgf・m)



◇クランクシャフトを反時計方向に2回転まわし、再度カムプロケットとフライホイールの合わせマークを合わせ、バルブクリアランスが変化していないか確認する。クリアランスが変化している場合は再度調整する。この作業を合うまで繰り返す。

◇ジェネレーターカバーのホールプラグ2箇所を取り付ける。



◇カムプロケットカバーをボルト4本で、バルブアジャスティングカバー IN側、EX側をボルト2本で取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：5.2N・m (0.53kgf・m)



スパークプラグの取り付け

◇スパークプラグをまず手で締め込む。
◇プラグレンチを用いて締め付ける。

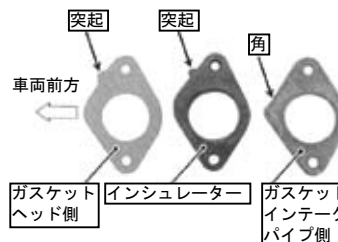
▲注意：必ず規定トルクを守る事。
トルク：13N・m (1.3kgf・m)



◇スパークプラグキャップを取り付ける。

スロットルボディ / インテークパイプの取り付け

◇ガスケット2枚とインシュレーターをシリンダーヘッドにセットする。



◇スロットルボディ / インテークパイプをボルト / ワッシャ2本を使用してシリンダーヘッドに取り付ける。

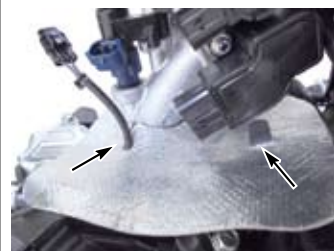
▲注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：12N・m (1.2kgf・m)



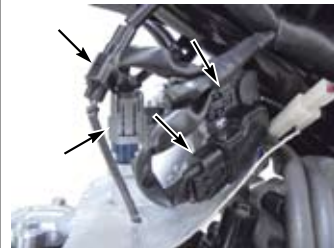
◇インテークパイプのユニオンにホースを接続する。



◇断熱シートに温度センサのカプラーを通し、クランプを差し込む。



◇インジェクタコネクタ、アイドルコントロールコネクタ、スロットルセンサコネクタ、温度センサコネクタを接続する。

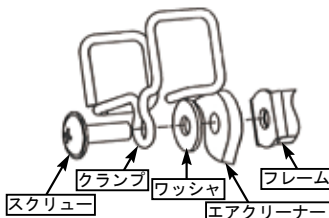


FI コントローラーの取り付け

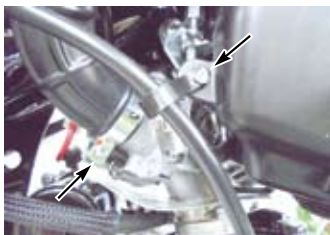
◇弊社製 FI コン TYPE-e をその取扱説明書に従い、取り付ける。

エアクリーナーの取り付け

◇エアクリーナーをフレームにセットし、3本のスクリューを取り付ける。



◇コネクティングチューブとスロットルボディを接続し、バンドのクランプを締め付ける。ハイテンションコードのクランプをエアクリーナーに取り付ける。



◇ボルトにてホーンを取り付け、配線を接続する。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
ボルト
トルク：5.2N・m (0.53kgf・m)



◇ブリーザーホース、ドレンホースをエアクリーナーに取り付ける。



エキゾーストマフラーの取り付け

※エキゾーストマフラーがノーマルから変更されている場合は、その取説に従い取り付け。

◇エキゾーストマフラーを車両にセットし、エキゾーストパイプホルダーナット2個を仮止めする。



◇マフラー取り付けボルトを仮止める。



◇O₂ センサーカプラーを接続する。



◇エキゾーストパイプホルダーナットとマフラー取り付けボルトを締め付ける。

⚠注意：必ず規定トルクを守る事。
エキゾーストパイプホルダーナット
トルク：14.7N・m (1.5kgf・m)
マフラー取り付けボルト
トルク：16.5N・m (1.68kgf・m)

外装部品の取り付け

◇サービスマニュアルを参照してロアカウリング、ミドルカウリング左右、サイドフレームカバー左右を取り付ける。シートを取り付ける。

FI コントローラーの設定

◇弊社製 FI コン TYPE-e の設定をその取扱説明書に従い行う。

●走行前の注意

①使用燃料について

燃料タンクにレギュラーガソリンが残っている場合は、必ずハイオクタン価ガソリンと入れ替えて下さい。

②各部の点検

◇各部を点検し、ネジやナット等の緩みが無いか確認します。
◇エンジンオイルが規定量入っているか確認して下さい。
◇風通しが良く、安全な場所で十分注意してエンジンを始動し暖気運転させます。
◇エンジンからの異音や、各ガスケット部からのオイルもれが無いか点検して下さい。
◇エンジンを切り、充分冷えた後で各部を点検し、ネジやナット等の緩みが無いか再度点検して下さい。